

# To think for yourself and respect others

市教育委員  
佐々木 歌織 さん



将来必要な力を身に付ける

私は弁護士をしながら、市の教育委員として教育に携わっています。弁護士の仕事をしていること、答えのない問題が多いことに気付かされず。その問題に立ち向かえるおとなになるためには、自分で考え判断する力を持つことと、他者の意見を尊重することが大事です。これらの力を身に付けることによって、社会に出てから出会う答えのない問題に自分なりの答えを出すことができるのです。

自分で考え判断する力を持つには、情報を収集して正しく読み取り、判断する訓練が必要です。また、同時にそれを他者に伝える訓練も必要です。子どもたちの中には、「他の人の答えと違っていたらどうしよう」と不安になる子もいるかもしれません。しかし、自分の意見は他者に伝えて初めて生きるものです。根拠があつて出した答えならそれが自分の考えであると自信を持って言えるようになるためにも、意見を伝える機会を設ける必要があります。一方で、他者の意見を尊重

## 「生きる力」を育む教育

新しい「学習指導要領」がスタート

「学習指導要領」は、全国どこの学校でも一定の水準が保てるよう、文部科学省が定めている教育課程（カリキュラム）の基準です。新しい時代を生きる子供たちに必要な力を三つの柱として整理。「何のために学ぶのか」という学習の意義を共有しながら、授業の創意工夫や教科書等の教材の改善を引き出していけるよう、三つの柱に基づいて子供たちの学びを後押しします。

【三つの柱】

- 1 学んだことを社会に生かそうとする学びに向かう力、人間性
- 2 実際の社会や生活で生きて働く実際の知識及び技能
- 3 未知の状況にも対応できる思考力、判断力、表現力など

※文部科学省ホームページより抜粋

することも重要です。社会に出たら、自分の意見だけが全てではありません。「これが私の意見だけど、そういった考えもあるね」と他者を妨げないことも大切になってきます。自分の意見を発信すると同時に、相手も自分と同じように考えて答えを出したことに気付いていかなければならないのです。

### 授業に訓練を取り入れる

これらの訓練の機会を上手く授業に取り入れた例があります。それは市内の学校で行われた授業で、実際に私も見学をしたのですが、「空き地をどのように活用するか」というテーマで議論を交わすというものでした。子どもたちは、自分たちで情報を集め、考えを組み立てて自分なりの意見として発言をしていました。積極的に意見を言うことと、他者の意見を認めることを実現している時間でした。このような機会が増えれば、子どもたちが自分で考え判断する力を持つことができ、他者の意見を尊重することができるようになれば、これからの社会にも対応できるおとなになれると思います。ひいては自分自身が出会う問題を一つずつ解決していき、幸せに暮らしていくことにつながるのです。

レシピ提供：市立保育所・こども園給食部会

●材料（おとな2人・子ども2人分）

- 切り干しだいこん ..... 30g
- ツナ缶 ..... 1缶
- ニンジン ..... 小1/3本
- キュウリ ..... 1/2本
- 砂糖・酢 ..... 各小さじ2
- 濃口しょうゆ ..... 小さじ1

熱量（1人分）：103kcal、塩分：0.5g

●作り方

- 1 切り干しだいこんを水で戻し、食べやすい長さに切る。ツナ缶の油を切り、ニンジンとキュウリは千切りにする。
- 2 切り干しだいこん、ニンジン、キュウリの順番に、柔らかくなるまでゆでる。ゆでた野菜はザルにあげて、流水で冷ましてからしっかりと水気を切る。
- 3 砂糖、酢、濃口しょうゆを合わせ、ツナと②の野菜を入れて和える。

POINT キュウリなどの夏野菜は水分やカリウムを豊富に含んでいるものが多く、体を冷やす働きがあります



## 切り干しだいこんの和え物

優しい酸味で初夏を感じる一品

## 市職員を名乗る還付金詐欺に注意

「還付金を渡します」との電話が増加  
すぐに対応せず家族や市役所に相談を

事例1 市役所から「後期高齢者医療保険の振り込みの書類が届いていません。4月1日締め切りで、手続きを急ぐためこちらで記入します。口座番号と暗証番号を教えてください」と電話があった。(70歳代 女性)

事例2 「市役所保険年金課の〇〇です。2万2,000円の返金があります。代わりに手続きをしてあげるので、キャッシュカードを持って近くのATMへ行ってください」と電話があった。(80歳代 女性)

事例3 「市役所の保険課です。医療費の還付金が4万円ほどあります。銀行口座に振り込むので、口座番号と暗証番号を教えてください」と電話があった。その後、銀行から「還付金を振り込もうとしたが、エラーが出て振り込みできません。キャッシュカードの交換が必要ですので、これから担当者が伺います」と電話があった。(70歳代 男性)

市内で市職員を名乗る不審電話が発生しています。口座番号などを伝えてしまった場合は、銀行と川西警察署☎(755)0110に相談してください。市の職員や銀行員が暗証番号を聞き出したり、訪問してキャッシュカードを預かったりすることはありません。「暗証番号は教えない」「キャッシュカードは渡さない」など、被害に遭わないよう注意してください。市の職員を名乗る怪しい電話があった場合は電話を切り、家族に相談したり、市役所☎(740)1111（代表）に電話したりするなど、すぐに対応しないようにしましょう。また、留守番機能付き電話機を持っている人は、在宅中でも留守番電話に設定し、心当たりがない電話には出ないことをお勧めします。

## 幸せになれるはずだったのに

結婚後に人工授精で授かった子ども  
出生届が受理されない問題が発生

僕は2008年3月、家庭裁判所に性別の取り扱いの変更を申し立て、国から「男性として生きていい」と認められました。そして、現在の妻と結婚することができました。祝福してくれる人もいれば、冷たい言葉を投げかける人もいました。でも、僕たちはお互いが同じ方向を向いて一緒になることを決めたので、周囲から言われたからといって、諦めることはしませんでした。

結婚し、妻と子どものことを話し合いました。しかし、僕には生殖機能はありません。そこで僕たちは第三者の精子を使い人工授精を行いました。僕たちが何かをしようすると周囲からいろいろと言われます。「なんで子どもをつくるん?」「結婚できただけでいいやん」などと。どうして僕たちが子どもをつくってはいけないのか?と思う時もありました。子どもを欲しいと思う人たちと気持ちは同じです。僕たちは安易な気持ちで子どもをつくったわけではありません。妻も悩みました。それは当然だと思います。そして、僕たちは第三者から精子をもらい妻は妊娠し、お腹に新しい命が宿りました。妻と一緒に、子どもを授かり、「本当に生きてよかった」と幸せを感じました。妻のお腹が大きくなるにつれて「幸せ」や「命の大切さ」を感じると同時に、周囲からの「かわいそうな子」「誰の子」という冷たい視線。

そして、子どもが誕生し、出生届を市役所に提出すると「父親の欄に僕の名前があると受理できない」という問題が発生しました。幸せの絶頂から一夜にしてどん底に突き落とされ、僕の闘いが始まりました。

(Like myself 代表 前田良)